

6-11

主題 特別養護老人ホーム併設型 短期入所生活介護利用率アップの取り組み

短期入所利用率アップ

副題

研究期間 6ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム清風園 短期入所生活介護

発表者：齋藤 将（さいとう まさる）

アドバイザー：

共同研究者：高橋 亜季（特養生活相談員）・伴 成顕（特養生活相談員）

電 話 042-735-3000

メール seifu.tanki@san-ikukai.or.jp

FAX 042-734-8933

URL <http://www.san-ikukai.or.jp/seifu-en/>

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

1964 年開設の特別養護老人ホーム清風園に併設。特養定員 110 名に対し、ショートステイ定員は3名の併設型。短期入所生活介護担当は生活相談課ではなく介護課が行っている。他、同施設内には通所介護、訪問介護、訪問看護、グループホームを併設している。

《研究前の状況と課題》

- ① 近隣に単独 50 床のショートステイや複合施設があり、施設としても他事業所ケアマネジャーに対するインフォメーション不足により、居宅介護支援事業所からのショートステイ利用依頼が少なかった。
- ② 特養生活相談員との連携不足から、空床利用が少なく、特養新規入所や退院を待っている状況だった。
- ③ ショートステイご利用者様、ご家族様の意向や現場からの意見を直接再確認する場がなかった。

《研究の目標と期待する成果》

- ① 施設単位で考察する事により、各事業所への宣伝効果を期待し、利用率アップに繋げる。
- ② 生活相談員との連携を行う事により、空床利用を増やし、利用率アップに繋げる。
- ③ 短期入所生活介護担当として、ご本人様、ご家族様にもっと関わる事により、信頼関係を構築、又各部署からの意見を再確認できる場を作る事により、サービスの質の向上に期待する。

《具体的な取り組みの内容》

- ① 在宅部門のメンバーによる居宅介護支援事業所を含めた福祉施設への営業活動を行う。
- ② ケアマネジャーと密に連絡をとる。
- ③ 特養に於ける新規入所や退所及び入退院者による空床状況について生活相談員と情報を共有する。
- ④ 特養の入所調整委員会通過者へショートステイの利用についてケアマネジャーへ提案する。
- ⑤ ショートステイ担当が送迎付添を行い、ご本人様の直近のご様子や、ご家族様の要望を直接確認する。又、ショートステイ利用後、ご家族様へ様子伺いの連絡を行う。
- ⑥ ショートステイご利用者様のカンファレンスを実施する。

《取り組みの結果と評価》

- ① 各在宅部門の最新空き情報を居宅介護支援事業所に訪問し伝える事でショートステイ新規利用に繋がり、又在宅部門内でも情報共有を随時図り、必要時のショートステイ利用に繋がった。
- ② ショートステイご利用中の様子を担当ケアマネジャーに伝え、定期的に計画書（ケアプラン）を見て頂く事によりショートステイでの利用状況を理解して頂く事が出来た。
- ③ 施設内グループウェアを使用し随時空床情報の共有を行い、ショートステイのご利用提案が素早く行えた。
- ④ 入所調整委員会通過待機ご利用者様へ、ショートステイ利用の提案を行う事により、清風園での生活にご本人様が慣れて頂き、同時にご家族様にも清風園でのサービスを理解して頂く事が出来た。
- ⑤ 担当者が送迎付添を行い、ご本人様、ご家族様と直接会い話す事により信頼関係の構築が行えた。又、退所後のご本人様、ご家族様の状況を知る事により、今後のサービス提案に繋げる事が出来た。
- ⑥ 特養部門の関係者が月に一度集まり、ショートステイミーティング内で、事前にご本人様、ご家族様に意向を伺った内容を、各部署に意見をもらい相談する事によりサービスの向上に繋がった。

《提案と発信》

町田市内に於いて、新規施設オープンが続き、他施設とのサービスの差別化が必要不可欠となってきました。しかし、上記項目を実践する事により、安定した利用率を確保でき、サービスや満足度の向上に繋げる事が出来ました。

【メモ欄】